

マーサージャパン株式会社
今井 俊夫

第10回「債券の話」

「債券の話」

資産運用と言えば、まずは株式投資のことと思われる方が多いかもしれませんが、当基金では、株式以上に債券に投資しています。債券は、基金に「あらかじめ見込むことのできる」基礎的な収益をもたらします。そのため、年金基金の運用に限らず、広く機関投資家の資産運用計画の出発点として採用されています。必要とする収益のうち、まず債券投資により固められる分を定め、それで足りない分を、日々の価格変動の大きい株式投資などに託していくのです。

債券は、国や企業の資金調達の手段の一つで、一般に満期と利率が定められています。資金調達に応じた投資家は、払い込んだ元本を、満期までの間ほかに使うことができませんが、その見返りとして定期的に利息を受け取ることができ、満期が訪れば元本が償還されます。投資家は、提示された満期と利率を見て、自らの資産運用計画に資すると考えれば投資すればよし、ほかに魅力的な投資対象(資金の用途)があれば、応じなければよいのです。

悩ましいのは、この利率が非常に低くなっていることです。日本の金利が昨今著しく低いことは銀行預金を通じて肌で感じていると思います。債券の利率も同様です。債券の代表格は本邦政府の発行する日本国債ですが、今年6月に発行された満期10年の日本国債の利率は年0.1%です。しかもこの債券の平均落札価格は、額面価格100円に対して100円21銭でした。つまり額面価格10,000円で毎年10円、10年間で100円の利息を得られ、10年後に元利合計10,100円となる国債への投資には10,021円が必要で、実質的な利回りは0.08%となります。ひどいときにはこの債券に101円以上でも買い手が見つかることがあります。「マイナス金利」です。利率0.1%の債券でも、90円で買えば10年間の利回りはそれでも1%以上になりますが、100円以上でも買いたいという投資家がいる中で、日本政府もわざわざ90円で売ってはくれません。

収益をあらかじめ見込むことができると言っても、投資元本が失われると分かっているものに投資する積極的な理由は見出せません。また、ひょっとすると1年後には利率が改善しているかもしれませんが、今、低い利率で10年固定してしまうと、それに乗り換えることも易々とはできません。そのような背景から、当基金では現在、国内の債券を避け、主に外国の債券に投資しています(為替リスクは排除)。ですが、将来的に利率が改善されれば、再び基礎収益の獲得を担う資産として投資を検討することになるでしょう。